

「主体的に学習する児童の育成」

～ 国語科「読むこと」の授業づくりを通して～

I 研究の内容

1 研究仮説

国語科「読むこと」、とりわけ「説明的文章」の読解の授業において、基礎基本の定着を図り、それらを活用するための言語活動を取り入れた学習を工夫していけば、学力の基盤となる国語力を身につけ、主体的に学習する児童を育成することができるだろう。

2 研究の具体的内容と方法

- (1) 「読解力」・「活用力」の定義について理論研究を行う。
- (2) 児童の実態を把握し、課題を明確にする。
- (3) 説明的文章における基礎的・基本的な知識・技能を整理し、系統化を図る。
- (4) 説明的文章の授業において、活用力を育てるための学習過程を工夫する。
- (5) 読書活動の充実と言語環境の整備をする。
- (6) 低・高学年ブロックごとに指導法を研究し、年2回の研究授業を行う。
- (7) 一人一実践による授業公開をし、互いに学び合う場を持つ。

3 研究実践

(1) 理論研究

「PISA型読解力・今求められている国語力」

佐藤喜美子先生（教育センター 研修主事）

(2) 児童の実態把握

国語学習に関する児童の意識調査（アンケート）

(3) 指導内容と学習系統の明確化

説明的文章における学習系統表の作成（各学年）

(4) 研究授業

ア高学年ブロック

6年生「平和のとりでを築く」（岡）

イ低学年ブロック

1年生「どうぶつの赤ちゃん」（前田）

(5) 授業実践（一人一実践）

2年国語「サンゴの海の生きものたち」（野尻）

4年国語「アップとルーズで考える」（前島）

- 3年国語「すがたをかえる大豆」(三森)
- 4年理科「もののかさと温度」(駒田)
- 5年英語「これは何かな? What's this?」(高添)
- 2年道徳「相手を思いやる心」(校長)
- 3年社会「見直そう わたしたちのくらし」(教頭)
- 4年保健「^{こつこつこ}骨骨貯金の骨を考えよう!」(金丸)

(6) 言語環境づくり

国語力向上視点をあて、読書活動と言語環境づくりについて、ブロックごとに大きな目標を設定した。

学年・担当・役職ごと個人目標に取り組んだ。

II 成果と課題

1 成果

ア「読むこと」の研究授業でを2回行った。理論研究をしながら、ブロックで共同で授業をつくり上げていったことで「活用」についての研究が深まった。

イ全員が授業を公開し、意見交換をすることで、自分の授業を見直すことができ、教師の力の向上に役立った。

ウ授業実践とあわせて読書や言語環境づくりの取り組みをすることで、成果が現れてきている。読書活動の継続と取り組み時間の増により、子どもたちの読書の質が上がり、読書量も増えてきている。

エ授業の中で、生き生きと主体的に学習する子どもたちの姿が見られた。

2 課題

ア長年、国語についての研究を進めているため、他教科にも研究を広げたい。

イ「活用」についての内容は広く、とらえ方も様々なので、このことについて研究していくのであれば、どの教科で研究を進めるのか検討する必要がある。また、先進校の研究視察や実践資料研究もしていきたい。

ウ児童の実態を見ると、読解力向上を目指す研究が引き続き必要である。

エ学習系統表を作ったので研究授業や日常の実践にもっと生かしていきたい。

オ個人の授業実践の公開時期が集中し、自習が増えるため、負担となる。計画的に実施していきたい。

III 成果物

- 1 6学年国語読むこと学習指導案及び資料(教材「平和のとりでを築く」)
- 2 1学年国語読むこと学習指導案及び資料(教材「どうぶつの赤ちゃん」)
- 3 授業実践指導案8点
- 4 読むこと(説明的文章)における学習系統表
- 5 言語環境づくりの個人実践カード

(研究主任 野尻 あや子)